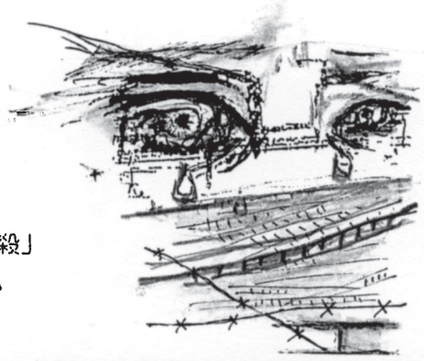
IMAGINE21 2012年 南京大虐殺【南京事件】から75年・・・!!

2011年
ミニー・ヴォートリン宣教師
没後70周年、追悼



本多勝一
(ジャーナリスト)

舞台化するのに最も難しい題材「南京大虐殺」を、かくの如き、みごとに創りあげたことに驚いた。
全国、海外での公演成功を心より祈ります。

戦争は終ってはいない今も‥世界中の人々の無念の死が!!、中国アジアの人々の無念の死が!!、日本人の無念の死が!!‥。

この舞台は、実話です「戦後、私の家族の中にあった闇―戦争の加害の罪―への私達自身の告白であり懺悔なのです」

ノンフィクション・ステージ **2人芝居**

地獄のDECEMBER(ディッセンバー)(12月)
-哀しみの南京-

プロローグ・2幕11章・エピローグ

中国、アメリカ、日本全国、の、2万人の人々に学んだ魂を貴方におくりたい

南京大虐殺(1937年)70周年記念追悼公演 2006年、12月～07、12月 〔中国・上海市、南京市〕〔アメリカ・ニューヨーク市〕

渡辺義治 **横井量子** 作・構成・演出・出演

南京大虐殺(1937年)
舞台化実現!!
2006年12月
～2011年10月
〔中国・上海市、南京市〕
〔アメリカ・ニューヨーク市〕
国内外 **93ステージ**

―推選します―
吉田　裕
(一橋大学教授)
笠原十九司
(都留文科大学教授)

芝居.indd 1 11/11/11 18:15

渡辺義治

吉田　裕（一橋大学教授）

御二人は家族の葛藤という重い現実に最も焦点をあわせることによって、歴史と向きあおうとされました。そんな御二人の勇気に敬意を表します。

◈ 告白　渡辺義治（よしじ）

私は幼い時、自分達家族は何か大きな罪を背負っている。自分は幸わせにはなれない…いや、幸わせにはならない。そんな意識のまま大人になった。そして 1983 年、母が自殺。

兄は「満州」で生まれ、私は 1947 年に生まれた。父は、職業軍人として中国人を殺し、そして父達、関東軍将校と家族達は同胞の日本人を中国に置きざりにして帰国した。この事実を兄から聞いたのが 1991 年…この時、自分の生命の誕生そのものに罪を感じ…すぐに、嫌がる妻を連れて中国東北部「旧満州」へ飛んで行った。

日本軍に油で虐殺された村人の遺骨の中に赤ん坊を抱えた母親が悶絶したまま息絶えている!!。

殺された中国人の「生首」を、己の誉れの為に持って笑っている…軍人の写真を見た。

そして、旅の最後…。

『あんた達は日本人だろ。ここから大勢の中国人が「731 部隊」や「日本」に連れて行かれ、今だに帰ってこない。日本人としてどう思う？』と、夜行列車のコックさんに問われた。

「C 級戦犯」だったと聞かされていた父のその罪の中に、まさに私は、今も父の罪と共に生きている…いや、生かされているのだと思った。

そして、10 年後の 2001 年「南京」へ行った。長江の虐殺現場で手を合わせた時、突然、目の中が真っ赤になり、ハチ割れる様な頭痛に襲われた。そして、「ウーウー」と唸る様な声に支配された。あまりの痛さにその場を離れた。すると、ウソの様に痛みが失くなったのだ。他の現場でも同じ事がおこった。

この時、私は「南京大虐殺」と、向き合わねば…と、思った。いや、向き合わされたのだと思う。

◈ 告白　横井量子（かずこ）〔本名　渡辺量子〕（渡辺義治の妻）

1937 年、父は近所の目黒の大橋の「連隊」に兵士の日用雑貨を納める商いを本格的に始めた。私は戦後、1946 年に生まれた。

大好きだった父の写真の中で一枚だけ好きになれない嫌いな写真があった。

戦争中にその商売で儲っていた頃の父の写真だ。父は、大口開けて笑っている！！…。

父が亡くなってから私は、29 年ぶりで、その写真を本気で見てみた…。

「アッ！！」と思った。父が売った品物を身につけた兵士達はどこへ行ったのだろう…？。中国、アジア、沖縄、他には考えられない！！。初めて心によぎった不安…！！。

「今頃、戦争に敗けなんだら…楽して、儲けて…」、子供の頃に聞いた父の言葉を何回も言ってみた…思いもしなかった事が頭に浮かぶ！。父にとって、あの戦争は「いい思い」をさせてくれていた…もの…だったのでは…？…「ウソ！！」「ウソでしょ…」。

思ってもいなかった戦争中の父の姿…と、写真が一致した。

兄嫁さん達は口をそろえて言う「おとうさんは仏様の様だった…」…。

けれど父は、私の愛する父は、軍人、兵士より重い罪を犯していたと思う。

何故なら、父達「御用商人、戦時成金」は人にやらせて「金」だけ入る…のだから…。

そして私はとうとう、作品づくりの為に読んでいた本（本多勝一著「南京への道」）の中で知った！！！…。父の商いの先であった「目黒輜重（しちょう）連隊」が南京へ出兵していたのだ。

戦前、エスペラントの本を持っていただけで捕まった労農党員であった村瀬さんが撮った南京の虐殺現場の写真の解説に書かれていた。後に奥様となった女性に、ひそかに命がけで送りつづけていらした三千枚のうちの一枚の写真が、その写真だった。

横井量子

笠原十九司（都留文科大学教授）

「地獄の DECEMBER」ー哀しみの南京ーは、日本において戦争の加害問題を初めて正面にすえた劇として、世界から注目されるにちがいない。

―すいせんの言葉―忘れてはならない歴史の劇化

主演の渡辺さんご夫妻による、二人芝居―哀しみの南京―は、今から 74 年前の中国・南京での師団命令などによる日本兵の中国投降兵、敗残兵、一般人への大虐殺をテーマとしています。

戦後生まれの渡辺さんと南京大虐殺を結びつけるものは、旧満州国の軍人であったお父さまです。ソ連の日本への参戦直後、渡辺さんのお父さまはいち早く満州を脱出し、日本本土へ逃げ帰りました。戦後、渡辺さんの父親は、戦時中の抗日中国兵などへの殺害に苦しみ、それが妻への虐待となっていきました。精神的な病いによる母親の自死に直面し、戦後生まれではあるが日本人としての戦争責任への深い思いが、渡辺さんの演劇活動へと向かわせたのです。哀しみの南京上演は、2006 年から始まり、既に 90 回以上の公演を行って来ました。渡辺さんの東京・下町でぜひ公演をしたいとの思いに共感して皆様への呼びかけとなりました。演劇は自由に観るものであり、ある一つのイデオロギーの宣伝ではありません。この劇を観てくださり、今日の日本と中国、韓国などのアジア諸国との関係を考える機会となればよいのではないかと思います。

「哀しみの南京」下町上演実行委員会代表　日本キリスト教団牧師　須賀誠二

南京大虐殺・75周年記念公演

2012年 1月27日（金）
開演18:45（開場18:15）
ムーヴ町屋
地下鉄千代田線町屋0番出口徒歩１分
京成線町屋駅徒歩１分／都電町屋駅徒歩１分

2012年 1月30日（月）
開演18:45（開場18:15）
ティアラこうとう小ホール
（江東公会堂）03-3635-5500
地下鉄都営新宿線住吉駅A４出口徒歩4分
JR総武線錦糸町駅南口よりタクシーで7分

一　般　3000円
大学生　1000円
中高生　500円
（小学生以下無料）
（当日500増）

2011年 ミニー・ヴォートリン宣教師
没後70周年、追悼記念公演

2011年12月27日（火）
横浜にぎわい座・のげシャーレ
昼14:00　夜18:30　（JR桜木町駅 徒歩3分）
問い合わせ　☎090-7946-7830（武田）

1月10日（火）18:30 大田区民ホール・アプリコ（小ホール）（JR蒲田駅より3分）
大田区公演 ―― ☎090-9299-8951（多田）

問い合わせ　下町上演実行委員会　TEL.03-3803-4671　（須賀）TEL.090-8559-5132（早津）TEL.080-5506-2295（渡辺）

芝居.indd 2　11/11/11 18:15